

## 平成30年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

### 1. 事業評価の実施

平成30年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

### 2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			H29	H30	H31		
島根県	津和野町	津和野町	●	●	□	B	4つの実施目標のうち、2つが目標を達成できていた。達成できなかった2つの目標については来年度達成できるよう事業を進めていきたい。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

### 3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である竹内 典之から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

#### 【第三者】

竹内 典之

#### 【意見聴取の概要】

達成できていない目標があるが、自伐型林業で生計を立てている者が増えていることは評価できる。今後も引き続き、地域の特色を生かしながら、自伐型林業を軸とした地域活性化を図る事業展開を行うことが重要である。

## 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	津和野町	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	津和野町	平成 29年度	平成 31年度	平成30年 8月 9日～平成31年 3月29日
3. 事業費(うち国費)	8,694,480円(8,694,480円)			
4. 第三者氏名	竹内 典之			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)    (B)    (C) 重点指導対象	4つの成果指標において、2つが100%を下回っているため、来年度は目標達成に向けた取り組みをより行っていく必要がある。目標は達成できていないが、自伐型林業で生計を立てている者が増えていることは評価できる。今後も引き続き、地域の特色を生かしながら、自伐型林業を軸とした地域活性化を図る事業展開を行うことが重要である。		
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)    (B)    (C) 重点指導対象	計画されていた活動を概ね実施できていることは評価できる。講師を招いての作業道づくり、搬出間伐についての研修が計画的に継続されていることにより、自伐型林家として自立する力が付いてきていることは評価に値する。また、先進地視察や林業機械のテストにより、今後の活動に生かそうとしている姿勢を評価する。また、若年層への森林教育プログラムの開発事業において、目標値よりも多くの人数が参加し、参加者の感想も概ね好評だったことは評価できる。		
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)    (B)    (C) 重点指導対象	所得額の増とイベントへの来場者の増といった目標が達成できていなかった。所得に関しては作業道の開設と間伐材の搬出といった基本的な林業だけでなく、薪の販売やシイタケ、ワサビ、タラの芽といった特産物の生産や搬出した材を加工し、木工品として販売するなどにより、所得額の向上を目指す必要がある。イベント来場者の増については、天候により動員数が伸びなかった面もあるので、開催時期を考慮する必要があること、来場者の興味を引くことが出来る内容にする必要がある。		
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)    (B)    (C)	美しい森林づくり委員会という津和野町独自の組織があり、その組織の会議において事業内容や取組方法などについて協議が行われたことにより、順調に事業が実施されていた点を評価する。		
その他				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

## 学識経験者等第三者について

津和野町

<p>1. 第三者の氏名、住所</p> <p>① 氏名： 竹内 典之（たけうち みちゆき）</p> <p>② 住所： 京都府京都市西京区嵐山谷ヶ辻子町11</p>	<p>3. 第三者の経歴</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・京都大学名誉教授。農学博士</li><li>・2003年、京都大学において海洋生物学者の田中克名誉教授とともに「森里海連環学」を提唱</li><li>・NPO法人日本に健全な森をつくり直す委員会委員</li><li>・2016年、環境省の「森里川海大好き！読本(仮称)」編集委員会委員</li></ul>
<p>2. 第三者に選定した理由</p> <p>竹内典之氏は農学博士であり、人工林の密度管理や針葉樹林を針広混交林への誘導、森林作業道開設などの研究をされている学者である。</p> <p>当町面積の約90%は森林である。人工林率は約35%と全国的数値と比較するとその割合は低いものの、戦後の拡大造林期に造林した森林が成長し、間伐材として利用可能な状況になりつつあり、かつてない森林資源量を有する状況となっている。</p> <p>しかし、急峻な地形と人工林が点在することなどから森林資源の活用はあまり進んでいない現状がある。</p> <p>そのため、森林資源の活用や林業についての豊富な知識を有するとともに、全国各地での先進事例にも精通されている竹内典之氏を選考し、地元住民だけでなく、UIターン者などが林業の担い手として活動するための指導助言がいただけると判断した。</p>	

別紙2

(任意評価様式第3号)

平成30年度	事業開始 2年目	島根県鹿足郡津和野町	津和野町
--------	-------------	------------	------

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

◆林業研修の拠点づくり

自伐型林業のための各種研修会の開催

国内で先駆的な活動をされている講師を招いて、適正な森林管理方法や壊れない作業道づくり、樹木の伐採方法、間伐材の集材、造材方法についての研修を開催し、自伐型林業に必要な技術習得を目指しました。また、先進地の視察研修やフォワーダ、ラジコンウインチ付き林内作業車といった木材の搬出に使用する機械をレンタルし、林業機械を購入する際の参考とするためのテストを行いました。

- ・森林アドバイザーの研修
- ・森林作業道開設研修
- ・搬出間伐研修



・先進地視察先 ポロ公冠フォレスト



・林業機械のテスト フォワーダ（2 t積）



・ラジコンウインチ付き林内作業車（1.2t積）



◆多彩な森林教育のプログラム開発

3～6年の小学生を対象にしたこどもキャンプを開催しました。こどもキャンプでは町内のフィールドを活用し、間伐体験や木登り体験、鮎漁体験などを行い、森林とのふれあいや森林での学びが楽しいと感じるような森林教育プログラムの確立へ向けた取り組みを行いました。また、小学生を対象として、間伐体験、製材所見学、ノミなどを使った木工など木を扱う仕事について学習する冒険クラブというイベントを3回開催しました。

・こどもキャンプ（川遊び）



・こどもキャンプ（ツリーイング体験）



・冒険クラブイベント（木工体験）



・冒険クラブイベント（ひみつ基地づくり）



◆森林とふれあいに関する拠点づくり

かつてのように人と森林との距離を近い状態にするために、全国の先駆者を招いて、自伐型林業が防災に繋がることや、地域エネルギー会社による地域内循環、木工クラフトなど広葉樹の活用法、山村の自然体験について紹介して頂く講演会を4回開催しました。

講師：中嶋健造氏（高知県・自伐型林業推進協会代表理事）、小森胤樹氏（岐阜・郡上エネルギー株式会社代表取締役）  
高橋直樹氏（北海道・中川町役場）、辻英之氏（長野県・NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事）

・中嶋健造氏講演会



・辻英之氏講演会



◆森林を活用した交流イベント企画

薪など山にある財産の価値について知ってもらうこと、触れあってもらうことを目的として薪フェスイベントを開催しました。イベントでは薪割体験、薪ストーブ・スウェーデントーチの実演、ウッドガスストーブの作成などを行いました。

・薪フェスイベント（薪割）



・薪フェスイベント（ウッドガスストーブ作成）



### ○今後の事業構想

自伐型林業を仕事として確立し、持続的に展開するために、引き続き、適正な森林管理方法や有利な森林経営方法、環境に配慮した幅員2.5mで山側の切取法面高1.5m程度の壊れない作業道づくり、伐採方法や集材造材方法など先駆的な技術の習得を目指します。

また、こどもキャンプや冒険クラブを引き続き開催し、イベントを継続的に行っていくためのノウハウを得るとともに、改善点を見つけることで森林とふれあい、森林を学習の場とするための森林教育プログラム開発を進めたいと考えています。

そして、森林での活動の取り組みの魅力を町内外へ発信すること、森林の価値について知って貰うためのイベント・講演会を開催することでより多くの人々が森林とふれあって貰えるよう活動していきます。

最後に、本町の森林において60%を占める広葉樹を活用するため、木材を求めている県外の業者の元へ行き、どのような材をどれくらい求めているのかなど具体的な話を聞くこと、広葉樹の市場を見学することでどのような材が売れるのかの確認をすることにより、産業化への足掛かりを掴みたいと考えています。